

京城日報

刊夕日二廿

●日英公使の長時間會談

英國公使は二十日我公使を訪問し長時間に渉り會談せり時局の急變は特に英人側を驚かしたり（特電）

●湖南亦獨立を宣言す

北京電に依れば湖南の勢威愈々振る各省相繼つて獨立を宣言せんとする氣勢を示せるを以て湖南省も亦風を望んで宣言せり（東京電）

●廣西獨立政府の首領

康有爲が岑春煊が其所に在る廣西の首領に依れば廣西獨立政府は北伐軍を撃つる前に秩序ある政府を組織するを必要とし首領に戴く爲康有爲及び岑春煊を迎ふることなれり（東京電）

●竟に出兵討伐に決す

陸軍東部軍益々強硬北京電に據れば廣東陸軍は袁政府の機密の通告に對し更に強硬なる回答を發したるに依り袁政府は竟に出兵討伐に決せり（東京電）

●英伊間の埃及條約調印

英伊間の埃及條約は既に調印せり（東京電）

●英國新軍隊の組織

既婚者服役問題の解決が英國新軍隊の組織の鍵を握る（倫敦電）

●英國皇太子の出征

倫敦公報に依れば英國皇太子は地中海方面遠征軍司令官に附随して埃及に到着せられたりと（倫敦電）

●獨軍大損害の證左

巴里電に據れば獨逸軍は最近の獨逸軍の損害は獨逸軍の損害の證左となる（倫敦電）

●露國內相の辭職

露國內務大臣フョードロフ氏は辭職を提出しシニチニル氏に繼いで内相に就任せられたりと（露電）

●佛國驅逐艇擊沈せる

巴里電に據れば佛國驅逐艇は最近の佛國驅逐艇の擊沈せる（露電）

●ヴェルダン戰線へ

獨逸の物軍隊進軍要求拒絶さる（倫敦電）

●戰利艦愈拂渡

獨逸政府は戰利艦を日本に拂渡す（東京電）

●三派合同見合

京城府議員會は二十日午後一時より三派合同見合（東京電）

●外交と内閣援助

陸軍東部軍益々強硬北京電に據れば廣東陸軍は袁政府の機密の通告に對し更に強硬なる回答を發したるに依り袁政府は竟に出兵討伐に決せり（東京電）

●墜落將校陸軍

二十日墜落將校陸軍（東京電）

●伊集院大使行

伊集院大使は二十日午後六時半大阪（東京電）

●秋山少將通過

秋山少將は二十日午後六時半通過（東京電）

●荒井長官通過

荒井長官は二十日午後六時半通過（東京電）

●總督邸晚餐會

總督邸に晚餐會（東京電）

●重要協議

重要協議（東京電）

●各普通學校卒業式

京城府の各普通學校は二十日卒業式（東京電）

●本郷中將入京

本郷中將は二十日入京（東京電）

●古海參謀長歸任

古海參謀長は二十日歸任（東京電）

●辭令三月二十日附

辭令は三月二十日附（東京電）

●東拓移民募集

東拓移民募集（東京電）

●露側委員決定

露側委員決定（東京電）

●政務總監任期

政務總監任期（東京電）

●荒井長官歸期

荒井長官歸期（東京電）

●德官監督出發

德官監督出發（東京電）

●川上

川上（東京電）

●入學兒童增加

入學兒童增加（東京電）

●廣州より

廣州より（東京電）

●水利工事着手

水利工事着手（東京電）

●起工式盛會

起工式盛會（東京電）

●山元

山元（東京電）

●山元

山元（東京電）

●山元

山元（東京電）

●山元

山元（東京電）

●山元

山元（東京電）

●山元

山元（東京電）

●生徒募集

生徒募集（東京電）

●高價買入所

高價買入所（東京電）

●戸澤清三郎

戸澤清三郎（東京電）

●西澤草花分配

西澤草花分配（東京電）

●夕顔

夕顔（東京電）

●夕顔

夕顔（東京電）

●夕顔

夕顔（東京電）

●夕顔

夕顔（東京電）

●夕顔

夕顔（東京電）

●夕顔

夕顔（東京電）

100

越後大評定

第一百六十六回 早川貞水口演

豊岡仁兵衛の立證

此とき小栗美作、美恐れ入りま
す。大野次郎兵衛は亂心者にて、申
しげること悉く前後不揃ひ、然れ
ば御押し様にも迷惑として解らぬと
御叱り遊ばされ、勇一、黙れヲ、次郎兵
衛が申し立てたる末の言葉は上に擲
る所あるに依て、其指を練ひし遊の
事や、其事を證に取つて己の惡事
を包み隠さんとは、大膽不敵な奴、
此上衛も強情張るに於いては、
汝に會はすべく、誰人あり」と是
に於て同門兵衛夫婦を御叱出しに
其が、何ぞか致して、君を罪に陥れ

す。豊後守、段々を上げ、
美作、此の如く誰人も情多あり、
據の品々も學たる上は、最早汝の
惡事疑ふ所なし、全く燃えあるな
ば有ると申せ、それとも未だん、口
欺いたるまい、事迄に至つては國を
所にあるまい、美恐れながら何
事と聞かれても、一向に燃えな
き事は、存ぞ知りぬと申し上げ
るに御坐いませぬ、永見大藏、萩田
主助、その他君に對し遺憾ある者
共が、何ぞか致して、君を罪に陥れ

墨コレ



人表みの「ヘー」豊小栗美作が
 大和守よりの「金子三河守」術國を刺さ
 んど致した顔末、遂にこれにて中
 立てえ「上」恐れながら仁兵衛殿に申
 てます」と是より自分の身の幸性か
 ら、美作のため助けられた事、それ
 がため美作から、三河守殿を刺殺せ
 と頼まれたこと、夫より俵の諺言を
 用ひ、御殿へ呼び込むたるに、過
 つて自分の俵を表手に掛けた事等、
 前向に申し上げました事の始末をツ
 ーンと申し上げ、仁一度は小栗の悪
 事を申し破り、是までの不忠を御詫
 言仕らんと存じました所、今更再割
 べ仰せ付けられ有り難く、恐れな
 がら紋紋綱が書き遣しました私への異
 見、御覧下され度」と差上げると、
 御目付内膳五郎殿之を受取り、益商
 らかに讀上げる、座流れたる方々、
 眺れも之を聞いて紋綱の忠孝に涙を

ます、その者が今の階へ現はれ、面かも水戸光圀公の家來だと聞いたら、驚くまいことか、斯りや最早敵のは、愈運命も盡きたるかと思つて蒼白くなつて居ると、我作其者は見覚えあらうな、美一向に存じませぬ」

▲五人を斬て切腹す。薩長縣南高良郡久米の豊後商社井原六次郎(薩)の鐵匠田太郎同宿人岡安次郎(七)といふ男は日本刀を揮て躍込

同屋人、斯君、陳大（一）及、居合せたる
川田勘太郎方同居人佐藤さき（二）
宮六方の麻片唐ざら（三）の五人に斬
附けて重傷を負はせたまふ、自分は
其處で腹を切て苦しまつて居る處を
「外眼」持へられた

「外眼」を持へた富當、大空の碧くつ
ぎい日であつた五つ鐘緋子の妻で定
紋打つた白用車返つて悠々東風亭
藏門外を走らず紳士があつた寒空に
前套も着けあちりとは妙なこ見れば
虎毛皮に相掛が決まつた大狐にがこ
れはある主からで氏に限つて和服
の外装を揃へたことのない品が代議
士を止めたら平沼頭三君がこの主
人にこぶれた陸西百頭斷中つた一
人この富當の才が外装を持たない

三月廿三日九星
舊二月二十日巳未
本命八白長蛇先引

[illegible]

演藝案内

電話 八七三
大正館

萬二千日、新寫
 文、奈太の風、
 米國、アモリ、
 泰西活劇、
 燭の中、
 最長尺、
 全三卷二十八齣、
 初派大悲劇、
 誰が妻、
 追ひ更に妻を迎へん、
 思ひ然れ別す、
 明〇前續、
 男の〇作、
 作

[illegible]

大正館の大寫眞
肥後駒下駄
悲劇 誰が妻
電話一五〇五
花小間治北海人 道一行合間浪花館
新派 誰が妻
電話一五〇五
花小間治北海人 道一行合間浪花館
電話一五〇五
花小間治北海人 道一行合間浪花館

年の慢性にも効力著し良薬なり
 一劑を試みよ此の藥は他藥店に
 同病者には切手三封封入申付
 自宅送るの詳細に依り致す
 古石屋市南かじや町 武藏電主

愛用者の聲

美顔白粉に、品質が優れ、抜けて其いので大變な人氣を引き起しましたにつけ、各地の愛用者から贈られた感謝の證として茲に御紹介致します

美^ひ顔^{かほ}白^{しろ}粉^{こな}を
お使^{つか}ひになつて
(其三)

(7) 私わたくしのさい愛あいの友とも

肌のつや

吉田糸子殿
馬面しづか殿
私はまだ寝てしまつたさうなこゝに居ても、
そんなに急をいれては致しません。し
かし寒い時分になります。師が太へ
んあれて、いつも誠に困るのですが、こ
の年は友たちがから聞きましたので、こ
ののかしつけたが上品な美顔白粉を
つけて居ます。其名の如く、この白粉
をつけましてからは顔があれませんが
色も白くなりました。そしてつけ心地
もよく、まるで花さんに行つてゐるや
うで、何とも言へぬ香がします。そし
て又何となくおこなく見えます。美
顔白粉は私の最愛の友と思つて、朝な
夕なにつけてゐます。

友の情け

奈美子殿
中田奈美子殿
都の友からお土産にやうな美顔白粉を戴
いたのは、忘れめせぬ一年の巻です。
早達便にめましたが、貴性の思も

糸子殿
美顔白粉をお供ひ遊ばせな、さうい
ふでツヤがよくなりました。ご存分も
美しく思つてゐる義姉様のお着装で
初めて美顔白粉を使つたのは、僕の美
顔白粉入りに染むる秋の夕でした。銀
の顔でつけた時色の白いに驚き、使用
後の肌さりはが氣に入り、僕に義姉様
にお禮を申しました。其う紅の雪がも
地に落ちて、咲きさる木枯に單の雪
を氣にして、僕は朝のうす遠い。
美顔白粉のお陰で肌白くつや／＼し
て美し／＼、こはれながらお正月
を待つた楽しさは忘れられませんが

冬の日

島徳子殿
局張國鳴海町
幸島徳子殿
湯上りの心地よさ。寒さに青さめて居
た朝のあたりにほつと血の氣が上つ
でした。私は僕の頭ににまつて静かに
毛を動かした。美顔白粉のよくな

(主) 感じた事

其後は生髮した如く光澤美しく、生地まで白くはなる様に思ひますので、朝の薄化粧には自然な美水を、湯上りには美顔白粉を欲すや用ゐます。お慰ましのお話ですが、人様からお美しいさかお化粧がお手だなんて申される度に、これ全く此の白粉の賜ものぞ、友の情けを感謝すると共に、皆様にも頻りにお勧めしてゐます。

(六) 私の告白

びるのが先づ私の満足の一つでした。そして仕上げてからこの顔の色つを魅したと思へないほど滑かしてゐるのです。私はこの自然色を保つことを毎も美顔で怠りて用ひますが、この頃では地肌までがマーブルの様に滑しく滑かになつたのは喜にたぐまません。

北村 稲見カヅ子殿
或心地よき夏の朝、新聞でフト美顔白粉の廣告を見ました。されど白粉や化粧水の廣告に毎も失望して居りますので、心もななく思ひながら早速使つてみたところ、三週士の自信を以て發表された中申さるゝ如く其附き工合、色合、生々とした艶澤、申分な良品で、今更普通一般の廣告と同様たるを恥かしく思つて居ります。氣候の變日にも顔の流れる様な事は決してなく、近頃では自分ながら垢マケのした心持がして済んでます

大正十三年二月二日
村山 子殿
脂肪の多い私の顔には、こんな白粉が斑になつて思ふ様に附きません。はげしく落着いて居りました。處が先頃常々人氣を引出した美顔白粉を、一足矢張駄目かした。さへびつて用ひて了へ驚きました。少しも斑にならず、りもノビも非常によく、其土光澤の自然の色には全く堪へなくなりまして此品にはは廣告があまりまじりません。私はそれからは美顔白粉ばかり常用して居ります。これは私の傾らざるまで白でございませう。

御申込アレ代價表進呈ス

果樹苗木
野菜種子
草花種子
農具肥料

販賣

植林苗木種子

子供ト水ハ知ラヌ間ニ
大キクナル何ヨリ財
産ダ

朝鮮平壤 内田百花園

器療素酸

◎正價 金參拾五圓

◎特 色

一、如用酒精拭去何物之藥用金參拾五圓

一、求其外水滲入何物之藥用金參拾五圓

一、治病藥例附

一、說明書連附

商標「O」オキシヘーラーは、其効力の顯著なる事使用後五分間にして三乃至五ミリの血脈を凡れ一時間を繼續すれば、バロウツ血脈計に之の効能を推進す、試みるにバロウツ血脈計に之を驗せば何人、明に計畫せらるべし

▽發効なる磁氣力應用の本器は斯して血液中の酸素含量を増大し健康の元素を補ふが故に醫治の疾に根柢するに、臨場の偉力を有せり論より即據使用者は忽ち氣脈強壯となり全身の溫暖呼吸の深長を感じ、次で熱感、解熱、頭痛、急慢性の亢進、所便の快適等生理的本能を回復するの神速なるは實に天下の奇蹟也

（茨城川俣船具効力水久不流にして電流の因 特）

（前掛留停車電町伏山）一三町御草區込牛京屯

品人生の一大福音

會助獎一ラーヘシキオ

二一七七二章東警派、九八六四町番品電

右現品大田に有之候
持合苗木根廻り一寸以上、同八寸候
一尺七寸以上

東京芝罘大田東洋蠶業式會社出張所
電話百〇七番（電報略號ト）
蠶具一式卸
（蠶具一式は送在也）

**體青保全の
營養新劑**

ロールを飲めば

病人は力附き虚弱者には健康に健康者は益々強壯に病を知るぬ人となる

大瓶 中月以上の廿日分 壹圓七拾錢也
小瓶 七日以上の十日分 壹圓也

昔は保食酒、明治時代に葡萄酒、大正の今日には工口ル也。其味は何人も喜び病者の見解に適し滋養食品なりき美食品なり

元榮創 小西 衛兵 町修造 大久

- ▲代理店
- 京城南大門通 釜山辨天町通 元釜山港
- 新井藥房 大黒藥舖 石田齋生堂
- 京城太平通 木下 井上 柳葉
- 安東縣市場


防正店業各は捌章

胃腸最良

日本
原米



胃腸疾患、食慾不振
貧血等の快癒に効




 三十三國專賣特許
 藥
 東京本町 會立 關城商賣
 開店御披露
 京表線 松月事 三根長七
 廣州 沙里院支店
 チゲスチン
 專賣の特許の目的に於ける
 の特患小兒の發熱を速
 減らすに實用せらるる
 膏劑すべし血液を導
 し熱力を感入にす

大和町電話四七五


山田重雄

山田藥局

健胃散本舖



名譽主官
牌處初



同 助 爵婦

同 同 同

萬子 蝶六 太郎 奴子

丸 蝶六 太郎 奴子

萬子 蝶六 太郎 奴子

瓢水味淋

大和町電話四七五

京成本町二丁目
專賣店 前田酒店

三女花子病氣
の處廿一日午前六
時死去致候間此段
謹告仕候也

追て來廿三日金中の行列
の廢し午後五時和町堀
敷院に於て葬儀初祭山候
尙手勝手放鳥市花御贈
の儀は早く御斷申上候

父 本莊彌之助
親戚友人二同

旭町二丁目(京城府廳模)
會社 京城葬儀社
二丁目
無極馬車
設備有之候
中河原重吉
井上芳太郎

電話九五七番

1

[illegible]